

議員派遣報告書（閲覧用）

令和5年11月24日

岐阜県議会議長 様

岐阜県議会議員 松岡 正人

下記のとおり議員派遣業務が終了しましたので、報告します。

記

派遣目的	アメリカとの経済・観光交流に関する事情調査 アルゼンチン・ブラジル 海外連携等調査
行程表、派遣成果	別紙のとおり
県政に活用できる事項	
県担当課	内 容
国際交流課	県人会、日系社会との国際交流を通じた海外戦略に関すること
県産品流通支援課	岐阜県産品のプロモーション及び販路拡大に関すること
収集資料（別添のとおり）	

視察日程

日付 曜日	午前 午後	渡航先国・地域 訪問地名	使用交通機関	日程の概要 訪問予定先名称等	宿泊先
7/24 (月)		アメリカ ロサンゼルス	JL3084 14:40 16:00 JL62 17:20 11:30 専用車 14:00	中部国際空港発 成田空港着 成田空港発 ロサンゼルス国際空港着 JETRO ロサンゼルス訪 問・面談 (ロサンゼルス泊)	ロサンゼルス GKI 関連施設 ※GKI シニア副 会長宅
7/25 (火)	午前 午後	アメリカ ロサンゼルス	専用車 10:30 13:00 19:00	在ロサンゼルス日本国総 領事館訪問・面談 リトル・トーキョー視察 日系人博物館、器の館、 風月堂 ロサンゼルス岐阜県人会 会員との懇談 (ロサンゼルス泊)	同上
7/26 (水)	午前 午後	アメリカ ロサンゼルス	専用車 11:00 13:30	Japan House 視察・面談 アンテナショップ Torio 視 察	同上
7/27 (木)	午前 午後	アメリカ ロサンゼルス	AA4 11:25 20:07 AA953 23:00	ロサンゼルス国際空港 JFK 空港着 JFK 空港発	
7/28 (金)	午前 午後	アルゼンチン ブエノスアイレス	専用車 10:54 13:00 19:00	エサイサ空港着 ポーセラーナ・ツジ工場 視察 アルゼンチン岐阜県人会 創立50周年記念式典 (ブエノスアイレス泊)	NH ホテル・ブエ ノスアイレス・フ ロリダ
7/29 (土)	午後	アルゼンチン ブエノスアイレス ブラジル サンパウロ	LX93 13:30 16:10 19:00	エサイサ空港発 グアルーリョス空港着 県主催レセプション (サンパウロ泊)	ブルーツリー・ プレミアム・パ ウリスタ
7/30 (日)	午前 午後	ブラジル サンパウロ	専用車 8:00 10:00	開拓先没者慰霊碑、日本館 視察 ブラジル岐阜県人会創立 85周年記念式典	

			15:30	日本・ブラジル移民資料館 視察	
			AA950 21:40	グアルーリョス空港発	
7/31 (月)	午前 午後	アメリカ ニューヨーク	JL5 6:30	JFK 空港着	
			JL5 13:30	JFK 空港発	
8/1 (火)			JL209 16:35	羽田空港着	
			JL209 19:10	羽田空港発	
			JL209 20:10	中部国際空港着	

海外視察報告書

○派遣議員 松岡正人

○派遣期間 令和5年7月24日～令和5年8月1日 5泊9日

○派遣先
1.アメリカ合衆国 ロサンゼルス
2.アルゼンチン ブエノスアイレス
3.ブラジル サンパウロ

○視察の目的

本年度は、コロナ禍以降、古田知事も海外への観光プロモーションを積極的に展開し、県産品の輸出拡大を図るため、各地へトップセールスを行っている。

前回北米を視察した際に、前南加岐県人会会長のハッピー水谷氏と懇意になったことで、情報交換をする関係構築が出来ていた。昨年10月に開催された岐阜県人会インターナショナル(GKI)世界大会については、ブラジル岐阜県人会の長屋会長と水谷氏の二人に副議長として懇談し、その後世界大会開催準備のためにZOOM会議にてたびたび打ち合わせをした経緯もあった。

「岐阜県人会インターナショナル世界大会」を契機とし、交流が深まった県人会の方々と直接お会いして交流させていただくことで、今後の県産品輸出拡大の戦略や中高生に対するZOOMによる授業の更なる推進、若者の留学や職業体験交流について、GKIの皆さまと共に新たな展開を目指して一層の関係構築を図るために渡航した。

南米においては岐阜県にゆかりのある人々に、岐阜県の魅力を発信し、「岐阜愛」をキーワードとした岐阜県との交流を一層推進するために、県人会の周年事業や交流行事に、副知事と副議長に同行して参加した。

○ロサンゼルスでの視察(アメリカ合衆国)

1. JETRO サンプルショールーム視察

日時 7月24日(月) 14時 ～

視察先 JETRO サンプルショールーム(ロサンゼルス)

面談者 所長 瀧 統 氏、次長 和波 拓郎 氏

「ロサンゼルスの経済とビジネスの現状」と題して、レジュメに基づいて、人口や面積などの都市概要から始まり、日系企業の動向、オリンピック開催準備などの説明を受けました。そして、ジェトロ・ロサンゼルスの役割や管轄エリアなどの概要と若者のアメリカにおけるスタートアップ支援など、最近の動向についても教えていただいた。

そのあと「最新の“食”情報のレポート」に基づいて、食文化や他人種構成、物価や日本食人気などについての説明のあと、カリフォルニア州は2022年の名目GDPでアメリカ、中国、日本、ドイツに続く世界第5位の経済規模を持つこと等についても説明いただいた。

そしてこのような背景において、岐阜県の県産品の販路拡大に向けて意見交換をさせていただいた。「多く輸入されている品目は、日本酒110億円、ブリ80億円、和牛60億円、海産物が意外に多いこと、青森県と愛媛県と島根県が連携して海産物を輸出する取り組みをしている。日系人は130万人といわれ、140社の日系スーパーがあるので、どのように対応していくかが鍵となる。」などが、ジェトロからいただいた情報である。

「情報発信力が重要で、SNSやインフルエンサーを活用した販売が功を奏している例が多い。西海岸の市場は大きい、大都市はすでに多くの県が販売しようとしていて競争が激しい。マーケットメイクという考え方からすれば、コロラド州がオススメでチャンスが大きい。岐阜県に滞在して仕事をしたことのあるジェットプログラム経験者は、岐阜県の魅力を理解しているので、この人たちとの連携を強めることで、岐阜県の魅力を発信する草の根運動が有効である」というアドバイスをいただいた。

ジェトロとの意見交換において、県産品の海外展開・戦略には、一過性の売り込みイベントのみならず、継続的・地道に売り込みを続けることが重要であり、その費用対効果を考えても現地の県人会の皆さまや岐阜県をよく知るジェットプログラム経験者の皆さまと戦略的に連携し、販路拡大を促進

することが効果的であることを学んだ。長時間にわたって、多くのアドバイスや取り組み方法を教えていただく事ができて有意義な情報交換だった。



2. 在ロサンゼルス日本国総領事館訪問

日時 7月 25日(火) 10時30分 ～

視察先 在ロサンゼルス日本国総領事館(ロサンゼルス市内)

面談者 総領事 曾根 健孝 氏

日系人社会の文化や特色、最近の課題などについて教えていただいた。若者の海外でのトライアルがコロナによって阻害されて、以前よりいっそう消極的になっている事が懸念されるが、岐阜県人会のギフセカ(zoomによる授業)や海外留学支援を紹介したところ、県人会として取り組んでいることを称賛いただいた。

ジェットロでアドバイスいただいた「ジェットプロジェクト」は、総領事館が窓口になっていることから、「過去に岐阜県で働いた経験者とのコンタクトについてアドバイスをいただき、相当数の経験者がいるが個人情報があるので、受け入れた学校や市町村に働きかけて情報収集をするべき」との見解だった。ジェットプロジェクトで岐阜県に関わった外国人は、岐阜県の魅力を理解しているはずであり、その人たちからの岐阜県に関する海外への情報発信や魅力発信は、大きな効果や成果を生み出す手段になることを確信した。

また日本酒の魅力を感じるアメリカ人は多く、輸出拡大が狙える品目である一方、日本酒でも農産物であっても輸出に頼るのみではなく、アメリカ本土で生産することを意識することも今後の市場開拓には必要な考え方ではないかという斬新な意見もいただいた。



3.リトル東京視察

1)日系人博物館視察

日 時 7月25日(火) 13時 ～

場 所 全米日系人博物館(ロサンゼルス)

面談者 渉外担当ディレクター 三木 昌子 氏

博物館説明者 鈴木 康之 氏

「日系人博物館」では、日本人ガイドの説明のもとで約1時間、移民の歴史と文化、差別との戦い、戦争中の強制収容などについて学んだ。

日本からの最初の移民はハワイであり、その後第二次世界大戦では、強制収容など常に差別との戦いだった事がよく理解できた。お互いに助け合うために県人会が設立された歴史を学び、現在でもその精神が活かされていることを感じた。外国人土地法など、不公平さや差別、迫害を受けながらも勤勉さや几帳面さで、日系人が信用を得ていることは嬉しい事実であった。

説明書きが全て英語のみだったので、他言語も含めて日本語の説明書きやQRコードを活用した案内が必要だと感じた。また、この博物館周辺には、日本人の多くが崇拝する宗教上のお寺や宗派もあり、日本同様、お寺を中心に地域コミュニティを形成し、子供たちにとって最も大切な教育の場も寺子屋にて提供しつつ、今日までの歴史を紡いできたことも知ることができた。

岐阜県の子ども達にとっても、今後この博物館に修学旅行などで訪れることも大切な学びの場となると実感した。



2) 器の館(和食食器店)視察

日時 7月25日(火) 14時 ~

視察先 器の館(ロサンゼルス市内)

面談者 オーナー 桜庭 理恵子 氏

岐阜県出身で県人会会長を務めたこともある方が創業した「うつわの館」では、多くの陶器が取り扱われていることに驚いた。美濃焼は人気があり、取り扱いも多いということの商品陳列から感じた。

コロナ禍を経て現在の課題としては、発注から在庫までの期間が1ヶ月だったのが3ヶ月に伸びて商品の納入に支障が出ており、その原因は生産体制の高齢化や担い手不足で低下しているためというご意見をいただいた。今後、岐阜県としても県内のみならず、海外で岐阜県産品を取り扱う事業者の相談やニーズを、スピード感をもって情報収集する窓口などの環境を整備していく必要があると感じた。



3)風月堂(和菓子店)視察

日時 7月25日(火) 15時 ～

視察先 風月堂(ロサンゼルス市内)

面談者 オーナー 鬼頭 精二 氏

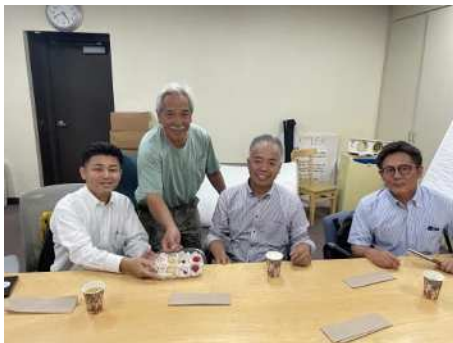
リトル東京で日系人店舗として長い歴史があり、岐阜県出身の方が創業した和菓子屋「風月堂」では、3代目の店主からご商売の話より日系人のコミュニティのお話を聞く事が出来た。

「防犯協会」と名付けられた任意団体を運営している店主は、日系人の警察届け書類の手助けや防犯活動、観光客など案内業務など、日本でいう「交番活動」をしている事で、地域の顔役として様々な人脈をお持ちだった。

また、リトル東京で毎年盛大に開催されている「Nisei Week Japanese Festival」というイベントを紹介していただいた。パレードには、仙台の七夕祭りや青森のねぶたなどが参加しており、岐阜県として何か参加してはどうかと提案もあった。当方から、地歌舞伎の写真などを交え紹介したところ、大きな関心を持っていただいた。

岐阜県産品の輸出拡大には、岐阜県の誇る伝統芸能とセットで提供できるイベントも重要であることを教えていただいた。加えて、仙台の七夕祭りのように岐阜県の「祭り」についても、大変興味があるとのことだった。

ユネスコ無形文化遺産である山・鉾・屋台行事<高山祭の屋台行事>等の日本独自の文化や伝統の周遊観光は、岐阜県の観光資源として大変有効であることも実感できた。



4. 県人会会員(12名)との懇談会

日時 7月 25日 19時 ~

会場 Chart House(ロサンゼルス市内)

参加者 南加県人会協議会 会長 樋田 まゆみ 氏 (12名)

事務局長 水谷ハッピー 氏

ジェットロ 和波 真帆 氏

南加県人会 柚原 章 氏、宮坂浩正 氏、土屋 雅庸 氏、

野村ともか 氏、松岡こういち 氏、JUN MATSUNO 氏、

桜庭 理恵子 氏 他

今回の海外視察の大きな目的の1つは、「岐阜県人会インターナショナル」との情報交換だった。南加県人会のメンバー10人ほどが参加して、情報交換会をすることが出来て、とても有意義な会となった。

参加者の1人、カリフォルニア工科大学の宇宙物理学者である宮坂浩正教授とは、航空宇宙博物館の話をする事ができたうえ、日系人学生が日本の文化や仏教、日本語を学ぶ機会として、岐阜県での研修や短期留学の仕組みづくりについて、各務原市と大学との連携など具体的に意見交換できた。さらに、私から若者の理系離れについての意見を求めたところ、日本の教育の課題は高校において、「理系コースと文系コースをわける教育が課題の一つであり、数学や科学の難しさではなく、科学のおもしろさや発見のおもしろさを素直に喜べる教育をもっと大切にすべきである」とご指摘をいただいた。

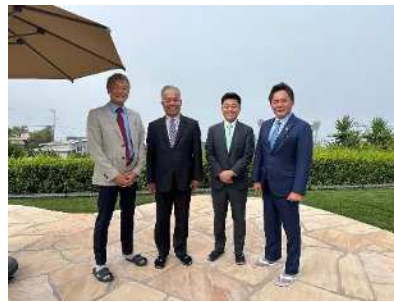
岐阜県の神戸町出身で、現在現地法人の会計士である土屋雅庸さんからは、「県人会を留学生のホームステイの受け皿として積極的に活用してほしい、日本の保護者の方々も、県人会が受け皿ならば安心される。だからといって、日本語ばかりで話すのではなく英語教育も提供する」との提案があった。若者の交換留学体制における県人会との連携は、経済的にも安心感という点でも有効な政策であると実感した。

また、昨年までジェットロ岐阜の所長をされていた和波真帆さんからは、「米国への岐阜県産品の販路拡大の方法について、ロサンゼルスだけではなくコロラドなどの内陸地の販路拡大を目指すべき」というアドバイスもいただいた。柿やお茶の輸出拡大についても意見交換させていただいたが、富有柿については、すでにLAで苗から育てた富有柿が売られているという衝

撃的なお話を伺ったが、ジェットロでもアドバイスがあったように、輸出するのではなく現地で日本の農業生産を実際に行うことが、現実的な手法として動いており、大きく甘い柿は西海岸で人気があるとのことだった。

多治見市出身の映画俳優のJUN MATSUNO氏、器のお店を経営していた元県人会会長夫人の桜庭理恵子氏、ホテル関係者の柚原章氏との意見交換では、美濃焼の器の輸出入について、様々な観点から話をする事が出来た。「岐阜県出身者だからこそわかる県産品の良さや魅力をどのように発信するか」という課題について、多くの県人会の皆さんと意見交換することが出来た。

またアメリカにて起業を目指す若い県人会の方からは、日本の伝統行事に使用されている「麻」についても大変興味があり、日本における「麻商品」は、まだまだ伸びしろのある分野であり、今後の展開を期待したいとの声もいただいた。



5. Japan House LA視察、面談

日時 7月26日(水) 11時 ~

視察先 Japan House LA

面談者 館長 海部 優子氏

シニア・リエゾン・オフィサー 森田 和頼 氏

Shingo Kato Chef Yoshitaka Mitsue Chef 他

企画展「ポケモン×工芸展」や図書館、多目的ホールなどを館長自らご案内いただきながら、ジャパンハウスの役割や取り組みを詳しく説明していただいた。

工芸作家によるポケモンを工芸品に取り入れたコラボレーションは、日本の文化を発信する興味深い取り組みだった。ポケモンは日本のアニメの象徴的な作品のひとつであり、世界共通のキャラクターとして認識されているが、これを日本が誇る伝統工芸作家によって日本各地に伝わる工芸作品として製作されていた。

それぞれの作品のキャラクターは、来場した子ども達にとって興味深いものであり、そのリアルな姿に感動していた。大人やシニア世代にとっては、知らないキャラクターを子ども達から聞くことができ、反対に日本の焼物の素晴らしさを大人達は子ども達に伝えることができる双方にとって、楽しく学びのあるコミュニケーションが生まれる企画として大盛況なイベントだった。

岐阜県的美濃焼とポケモンとのコラボ作品も、本当に素晴らしい作品であった。日本を代表するアニメと焼物のコラボ作品によって、日本の工芸品の素晴らしさを知っていただき、岐阜県的美濃焼の認知度が上がることを確認した。館長から焼物の多い岐阜県は人気のある県であると評価していただいたが、今後その魅力発信の仕方を考えるべきである。

ジャパンハウスには、料理の実演を映像で紹介できるキッチン付きのホールもあり、食と器によるイベントの開催も可能な場所となっているので、今後岐阜県としても活用をすべきと考えます。

さらにジャパンハウスでは、日本料理レストランも同じビルで展開していた。このレストランで、岐阜県の食材のコース料理、東濃の器、美濃和紙のお品書き、春慶塗のお箸や器、関の包丁などを活用して、お客さんに提供する企画も、県産品の売り込みに大変有効であると考えます。



6. アンテナショップToiro視察、面談

日時 7月26日(水) 13時30分 ~

視察先 アンテナショップToiro(西ハリウッド)

面談者 オーナー 武井モア奈緒子 氏

この店では伊賀焼の土鍋を中心に、日本の食事にあう器を販売すると共に、オーナーが鍋料理に合う、厳選した日本産の調味料やお米、お茶などを揃えて、岐阜県産品についても美濃焼をはじめ白川茶を香として楽しむことができるキッドなど、幅広く販売されていた。

なぜ土鍋を販売されたのかを尋ねると、「日本の食文化を代表する調理器具であり、ヘルシーな食事を提供することができる。そして蒸し料理や燻製など様々な調理に活躍し、土鍋で炊いたご飯を食べることもできる。日本の食文化の象徴の調理器具が土鍋である。土鍋を利用した調理レシピ本もセットにしており、調味料も同時に売れる」と答えられた。

注文は路面店があるハリウッドのみならず、オンラインにてヨーロッパをはじめ、世界中から来るとのことだった。販売価格も100ドル以下の手頃なものから、1000ドルを越える高級品まで幅広く揃っていた。美濃焼も大変人気が高いと評価いただくとともに、まだまだ色々な器を探していると言われた。お茶や器、岐阜県産品をもっと知りたいとオーナーも言われていたが、このようなGAS店を活用し、お茶や焼物の県内産地とのマッチングを如何に進めるかが、今後の課題であると認識した。

日本人の焼物に対する金額的な価値観と海外ニーズには、かなりの乖離があることがわかり、岐阜県においても海外向けオンラインショップの可能性が大きく、早急に取り組むべきだと考える。



○ブエノスアイレス視察(アルゼンチン)

1. ポーセラナ・ツジ(辻陶器)視察

日時 7月28日(金)13時 ~

視察先 ポーセラナ・ツジ(辻陶器)(ブエノスアイレス)

面談者 在亜岐阜県人会 辻 麻里子氏 大木 マルティン 氏
岐阜県人会長 永田マリオ 氏

アルゼンチンでは、式典や懇親会の他に、岐阜県出身の創業者が経営する「辻陶器、ポーセラナ・辻」の工場を見学した。従業員135人の大きな工場で、創業時は陶器販売で事業を起し、後に日本から技術指導を受けてアルゼンチン有数の製陶会社に発展したという説明を受けた。日本とは違った雰囲気の中で、手作業中心で、若い従業員が多いのが印象的だった。

経営者ファミリーの年配の方々から、移民してきた当初の苦労話を聞くことができた。現在の課題について尋ねたところ、最も大きな課題は、器を焼くための炉において使うガスの安定供給とのことで、アルゼンチンにおいても燃料費高騰の影響は大きいようだった。

日本が持つプラント技術やオートメーション化による生産性の効率化技術に加え、環境に配慮した再生可能エネルギーを活用した炉の技術提案等、ビジネスチャンスも多くあることも実感した。



2. アルゼンチン県人会創立50周年記念式典に出席

日時 7月28日(金)19時 ~

会場 在アルゼンチン県人会創立50周年記念式典
レストラン「エル・ヒエホ・アルマセン」

出席者 在アルゼンチン岐阜県人会 永田 マリオ 会長 他、会員60名

在アルゼンチン県人会設立50周年記念式典・夕食会には、岐阜県人会の方が約60名出席されていた。15年前に参加した際には、1世と2世が多かったが、今回は代が3世や4世に代わっていて日本語を話せる人が減った印象を受けた。1世の方とお話をした際に、2世や3世の子や孫は日本語を話せないが、日本人として誇りをもっていることを嬉しく思っているとお聞きした。

今後も彼達に県人会を引き継いでいってほしいと思う一方で、日本から移住してくる方は少なく、今後の県人会の存続を懸念しているとのことだった。アルゼンチン県人会と岐阜県のひと・もの・お金の交流が盛んになれば、県人会の存在意義が上がり、岐阜県にとっても新たな市場の開拓につながるのではないかと感じた。

岐阜県河合副知事から表彰を受けられた皆さんの喜んでいる姿を見て、県人会の皆さんが故郷岐阜県を真に大切に想っておられるのを感じた。100周年に向けて、アルゼンチン県人会との関係構築の新たな取り組みの必要があると考える。



○サンパウロ視察(ブラジル)

1.開拓慰霊碑並びに日本館視察

日時 7月30日(日) 8時 ~

視察先 開拓慰霊碑並びに日本館(イビラプエラ公園内)

面談者 ブラジル和歌山県人会 会長 谷口ジョセ真一郎 氏

ブラジル富山県人会 会長 市川 利雄 氏

イビラプエラ公園内の「開拓慰霊碑」において、ブラジル富山県人会連合

会会長の市川利雄さん、ブラジル和歌山県人会の谷口ジョセ真一郎さんから、日本人の開拓の歴史や開拓慰霊碑建立、そして日本館設立の歴史についてお聞きした。毎年6月18日の「移民の日」に慰霊碑参拝が執り行われているが、県人会に入っている日系人しかこの慰霊碑の存在を知らず、「移民の日」の参拝にも訪れないことは残念であり、ブラジルに多く住んでいる日系人、特に3・4世に日本人としてのアイデンティティーを引き継ぐことが、今後の課題でもあるとの事だった。

「日本館」においても、随所に先人に対する敬意や感謝が感じられ、私たちが訪れた時には、三重県が「忍者」を題材に手裏剣等の展示や三重県観光の促進展示を行っていた。また、岐阜県中津川市の中島工務店が「日本館」の修復作業等に取り組みされており、岐阜県に対する感謝の念が強かったことは、岐阜県民として誇り高き話だった。



2. 岐阜県人ブラジル移住110周年・ブラジル県人会創立85周年記念式典 に出席

1)日 時 7月29日(土)19時 ~

会 場 ジャパンハウス・サンパウロ(県主催レセプション)

出席者 ブラジル岐阜県人会 会長 長屋 充良 氏、県人会役員、
ジェトロ サンパウロ 原 宏 氏、来賓等60名

ブラジルにおいては、ジャパンハウスで行われた県主催のレセプション、

翌日の県人会主催の「創立85周年記念式典及び懇親会」に参加した。

レセプションにおいては、ジャンパンハウスで日本の様々な商品を取り扱っている業者の方と意見交換を行うことが出来た。

例えば、木製品についてジャンパンハウスでは、漆等が塗られた工芸品よりも、生木の素材を活かした工芸品の人気が高いとのことだった。その理由としては、漆等による作品は中国や韓国製と似ていると認識があり、木の素材をそのまま活かした家具や提灯などの伝統工芸品のほうが、日本らしくて売れるとのことであった。今後、一層岐阜県の良いものを知り、取り扱いたいとお話もいただいた。

このことから、LA同様に、県産品の情報発信やマッチングが今後の課題であると感じた。日本では、伝統工芸品はアート作品として取り扱っているが、ブラジルでは日常的に使用したいことや金額的に高級なものほどニーズがあることもあらためて解った。



2)日 時 7月30日(日)10時 ～

会 場 ブラジル愛知県人会館(岐阜県人ブラジル移住110周年・ブラジル県人会創立85周年記念式典)

出席者 ブラジル岐阜県人会 会長 長屋 充良 氏、県人会役員
在サンパウロ日本国総領事 桑名 良輔 氏 他約180名

岐阜県人ブラジル移住110周年・ブラジル県人会創立85周年記念式典は、在サンパウロ日本国総領事の桑名様をはじめ、岐阜県から河合副知事と副議長、そしてブラジルに姉妹都市をもつ岐阜市柴橋市長や関市尾関市長も来賓として出席し、盛大に開催された。会場には岐阜県の農業実習高校生も参加しており、農業研修のみならず、移住の歴史やブラジルの文化に触れて、楽しく貴重な経験ができたようであった。

第2部では、岐阜県下呂市出身のドクター細江静雄さんの生涯を基にしたドキュメンタリー映像が放映された。ブラジル移民の生活を支えるための医療的ケア、そして病院建設にも尽力したこと、さらには地域コミュニティー確立のために教育的な視点から、ボーイスカウト事業も立ち上げ、現在も引き継がれていることなどが紹介された。多くの素晴らしい功績と、岐阜県出身で偉人として尊敬されている細江静雄氏について知ることができた。末裔もそれぞれ活躍されているようで、今後、岐阜県でも偉人として顕彰するべきと考えるものである。

ブラジル県人会長屋会長からは、岐阜県人会と岐阜県とで若者の人材交流を積極的に行う事業に力を入れていただきたいとのオーダーもいただいた。そのような交流を深めることで人材確保と共に、双方の文化を知り産業育成にもつながるのではないかとのご意見だった。



3. 日本・ブラジル移民資料館訪問

日時 7月30日(日)15時30分 ～

視察先 日本・ブラジル移民資料館訪問

面談者 日本文化福祉協会理事 栗田クラウジオ 氏

ロサンゼルスにおいても移民資料館を訪問したが、ブラジルの移民資料館には多くの来館者が訪れていることに驚いた。そのお客さんの多くは日系人や日本人観光客ではなく、ほとんどが現地に住むブラジル人であった。

如何に日本人移民や日系人に対し興味があることを知ることが出来、資料館の説明言語がポルトガル語に加えて、英語と日本語で説明されていたのが印象的であった。迫害の歴史をクローズアップしたロサンゼルスの移民資料館と違って、移民のご苦労と様々な功績が紹介されていると感じた。

「正直、勤勉、真面目という日本人が、移民としての信用を構築してきた歴史」、先人に対する敬意が伝わってくる展示であった。

日本企業の協賛もあり、定期的な展示内容の変化も資料館の誘客につながっていると考えるが、今後岐阜県展を開催するなどし、岐阜県を知っていただく場所として、本館は適所で効果があると実感した。



○総括

ロサンゼルスにおける視察については、準備段階から全ての視察先への同行まで、元岐阜県人会会長のハッピー水谷さんのご協力で、大変有意義で実りある視察となった。また、ハッピー水谷さんの築かれた人脈によって、多くの幅広い世代の県人会の皆さまと意見交換することが出来た。

日系人スーパーや韓国系スーパー、アメリカのスーパーなど、人種・生活においてそれぞれ使い分けしているスーパーを訪問することで、岐阜県や日本の農業生産品、その他生活品の販売状況や各人の嗜好の違い、そして日本との物価状況の違いも確認し、今後の岐阜県の農業生産品等の販路拡大の道筋を検討する材料とすることが出来た。

国際観光や海外での県産品の流通拡大には、一過性のイベントのみならず、継続して粘り強く営業活動を続けていくことが、どの国でも重要であると再認識した。そのためには、岐阜県のことを理解し、岐阜県のこと大好きな県人会の皆さまに、岐阜県の営業マンとして協力いただくことも、国際観光・県産品の輸出拡大を促進する政策につながるものと実感した。

昨年岐阜県で開催されたGKI世界大会を契機として、GKIの組織と岐阜県との連携は欠かせないものであると再認識した。岐阜県においては、国際交流課や県産品流通支援課、農産物流通課、文化伝承課が一体となって取り組むことができるように、どこの部署がイニシアティブをとって運営するのか、もう少し明確にする必要があると指摘を受けた。

今回の視察は、企画経済委員会の3人のメンバーで多くの情報収集と人脈構築が出来たと感じている。

アルゼンチンやブラジルのように、岐阜県を含む日本からの移住者はだんだん減少し、日系3・4世が中心となっていく県人会の現実も目の当たりにした。今後は、若者の留学やインターンシップの交流を深めることで、先祖のアイデンティティーを理解し、県人会の継続的な発展に繋がるのではないかと考える。

県人会の皆さんの「岐阜愛」の強さを痛感するとともに、交換留学や日本への研修制度などの要望が多くあったことは、若者に対する想いと将来の岐阜県の発展に対する想いと受け止めた。一層の関係構築と若者に対する施策拡充に尽力できるように、GKIの顧問としても取り組んでいきたい。

今回の海外派遣という貴重な経験を活かして、今後の県政発展のために

努めたい。